

八学大準V

富士大に連敗喫す

野球

明治神宮大会東北代表決定戦

明治神宮野球大会東北地区予選は、弘前市はるか夢球場で、八学大(北東北1位)と富士大(北東北2位)の決勝戦が行った。第1戦で北東北の秋の王者である八学大に7-0で勝利した富士大が、準決勝で八学大に0-2で敗れた。2戦目は、八学大が先発投手を打ち崩し、3回に3打点の活躍で逆転した。最終的に、八学大が4-0で勝利した。

1戦目

【評】八学大は投手陣が4安打と打ち込まれ、競り負けた。同点で迎えた四回、安打と四球が絡み満塁のピンチを喫ると、中軸の連打で4失点を喫した。反撃は三回に小林が放った2点本塁打にとどまった。

2戦目

【評】八学大は初回、無死一、二塁の好機に平尾が右犠飛を打ち先制したが、三回に3連打で逆転を許した後は、散発4安打と打線がつながりを欠き、あと1点が遠かった。

勝ち越し機に打線沈黙

2013年以来となる神宮大会出場を狙った八学大だったが、同じリーグでのしを削る富士大との決勝2連戦で悔しい連敗。あと一勝に惜しくも届かなかった。2試合とも勝ち越し好機はあったが、相手投手陣を崩し切ることができなかった。森本聖也主将は「最後、このチームで神宮に行き、試合をしたかった」と涙を浮かべた。

焦点

【チームを勝たせるため、肘が飛んでもいっしょの気持ちで腕を振った。全球に魂を込めた。と先発の三田輔、力強い球で二回までは無失点の好スタートだった。しかし三回、一死からの連打でピンチを迎えると、後藤綾太に対する初球、高めに浮いたチェンジアップを右中間に運ばれて了点。「チームや応援してくれた人に申し訳ない。一球に泣いた。」

正村公弘監督は「力及ばなかった。投手陣を打ち崩すバッテリーと、リードを守り切る投手陣をつくらなければ」と今後の課題を挙げた。

(櫻端桃子)



「八学大 富士大」先発し、4回2失点だった八学大の三田輔ははるか夢球場